

旧佐岡小学校リノベーション計画

— 地に基づく建築・時を重ねる建築の統合 —

1180068 児玉 遼

指導教員 渡辺 菊真

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1. 設計の背景

1-1. 風景と建築

私の実家は田畑の広がる中にあり、幼いころから緑あふれる環境が身近な存在にあった。そんな中っていると無意識に建築を中心とした人工物に目が移るが、田畑に建つ実家や周りの民家に対しては違和感を抱いたことはなかった。しかし、街に出ると建築に対する印象は大きく変わった。同じ住居の集合体でも集落と新興住宅では受ける印象も異なる。民家や集落は田園風景の中でも違和感が無く、しかも、それらは群となって田園と共に風景をつくっている。建築が風景や周囲の環境に調和することの重要性を考えるようになった。

1-2. 原風景を繋ぐこと

建築が風景や周囲の環境に調和するためには、その建築が存在する地に基づいた設計をする必要がある。しかし、時代の流れとともに周囲の環境はその時代の要求に沿って変化する。

設計時の「ある風景」も、時代と共に変化してゆく不安定なものである。そこで本設計では地の風景の根本である原風景を設定する。このことにより、変化する風景にもゆるがない芯が通り、その結果、地域のよりどころを計画しうるのではないかと考える。

1-3. リノベーションということ

現在、時代変化とともに住み手がなくなった住居、使われなくなった施設や倉庫、そして学校が数多く存在する。これらの過去に建てられた建築はそれぞれに歴史があり、それ故に新築の建築にはないポテンシャルを持ち合わせている。それら建築を改修することで歴史の趣を残し、固有の空間の豊かさを加速させ、社会の変化にも対応できる。リノベーションは建築を再生し付加価値を付けるだけでなく、過去と未来の2つの時を重ねる建築だと考える。

2. 設計の目的

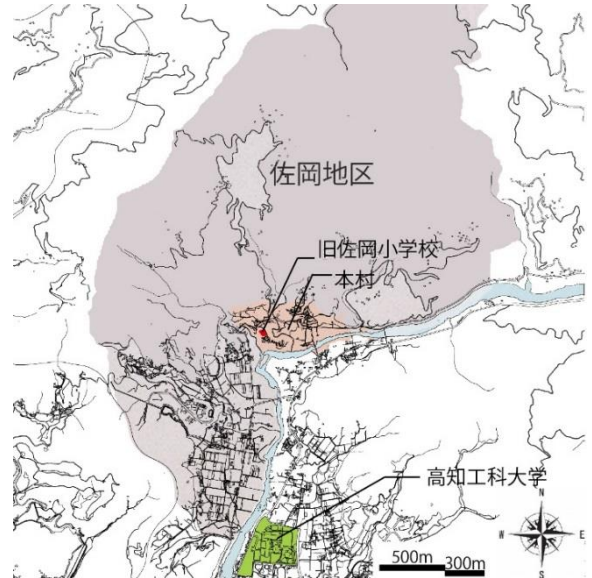
本設計では、地域の根本となる原風景を繋ぐ建築を計画し外部風景形成を図ること（「時間Ⅰ」を持つ建築の計画）、次に、既存建築をリノベーションして主要な建築内部空間として活用すること（「時間Ⅱ」を持つ建築の計画）、さらには、2つの建築空間を重ねることで2つの時間を併せ持ち、2つの時間を行き来する新しい建築を提案する（「時間Ⅰ」、「時間Ⅱ」、「時間ⅠとⅡを振動する時間」を持つ建築の計画）。

3. 対象領域と敷地の選定

3-1. 対象領域の概要

対象領域として高知県香美市土佐山田町にある佐岡地区を選定した。佐岡地区は佐野、仁井田、大平、本村、大後入、西後入、中後入、有谷、佐

竹の9つの大字から構成された人口596人（平成29年9月末）から成る地区である。北は山、南は物部川に囲まれている。人口減少による集落の消滅が危惧されており、佐岡地区地域振興推進協議会により地域づくりをはじめ、空き家を活用した移住者を募る活動も行なわれている。



(図1. 対象領域地図)

*1. 国土地理院の電子地形図10000に地区範囲と地名等を追記して掲載

3-2. 敷地の概要

敷地を本村に所在地をおき現在、佐岡コミュニティセンターとして利用されている旧佐岡小学校とする。本村は県道218号線が通り、旧佐岡小学校の他にも香美市立移住定住センターがあり佐岡地区の中心である。比較的緩勾配の地形であるが旧佐岡小学校の西側は約10mの起伏があり、谷底を物部川に流入する小川が流れている。起伏による影響もあり、小学校から南西を望む物部川への風景は棚田が広がる本村の中でも最も豊かな風景の一つとなっている。

3-3. 建築の概要

・佐岡小学校の沿革

明治7年	…	佐岡小学校設立
明治29年	…	校舎改築
明治41年	…	校舎増築
大正5年	…	校舎増築
昭和20年7月	…	爆撃により北校舎全壊、南校舎半壊
昭和22年4月	…	校舎復旧工事完了
昭和53年10月	…	新校舎竣工
平成2年2月	…	屋内運動場竣工
平成24年10月	…	耐震改修工事竣工
平成25年3月	…	休校
平成25年7月	…	香美市立佐岡コミュニティセンター開所

旧佐岡小学校は一度建替えられており、設立当初は寄棟屋根がかかった平屋木造校舎だった。それから改築、増築、建替えを経て現在のRC躯体の校舎となった。平成25年に休校となっているがその前年度に耐震改修工事を竣工させていることから小学校としての機能を失うことを前提とし、佐岡地区のコミュニティーセンターとして活用しようとしていたことが見て取れる。現在は1階の約150㎡がコミュニティーセンターとしての利用を許可され、使用されている。

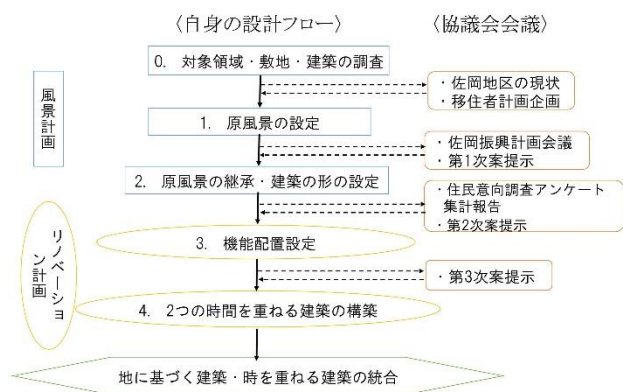


(写真1. 対象建築物)



(写真2. 既存RC校舎)

4. 設計の順序



(図2. 設計の順序図)

5. 設計の指針

5-0. 竣工後の施設活用目標

佐岡地区地域振興推進協議会は旧佐岡小学校を拠点に地域づくりを行ないたいと考えており、現在旧佐岡小学校の有効活用を図り、地域づくりの核としての利用を希望している。

5-1. 風景計画の指針

5-1-1. 原風景の設定 (時間Ⅰを持つ建築)

本設計では、南北に二棟の平屋木造校舎が建っていた風景を原風景として設定した。平屋木造校舎は現在のRC校舎建築以前に建てられていた校舎である。戦前から戦後までの長きにわたり佐岡地区と共に在り続けた歴史を持つ平屋木造校舎が建つ風景を、風景の根本と考え原風景に設定する。

5-1-2. 既存建築のリノベーション (時間Ⅱを持つ建築)

現存するRC躯体を主に、部分的に木造軸組構造を導入した。躯体を残すだけでなく小学校としての内部空間を感じられるように教室のカタチを維持し、住民にとって慣れ親しんだ空間を残す。機能については佐岡地区の地域づくりにふさわしいものをあてがうこととし、詳細を5-2にて説明する。

5-1-3. 2つの時間を重ねる建築

外部を過去の原風景を想起させる寄棟屋根の木造校舎にし、内部に入ると時間Ⅰの木造軸組みによる原風景を想起させる空間と、時間ⅡのRC躯体による慣れ親しんだ空間の2空間が重なり、2つの時間が混在する空間を行き来することになる。

5-2. 新機能の方針

設立後、佐岡地区の地域づくりの核としてふさわしい機能とするため佐岡地区振興推進協議会による住民アンケート (平成29年10月実施)の結果を反映させ、以下の機能をあてがう。

I. コミュニティーセンター

現施設の主機能であるため維持する。

II. 宿泊施設

移住者を募る際、佐岡に足を運んでいただく機会をつくる必要があることから、地域外の個人・団体また学校の課外研修を対象に宿泊可能とする。

III. 農産物販売所

農家が収穫した農産物を出荷・販売する機能。佐岡の自給率が高いことをアピールでき、住民も利用することで集落のためのコミュニティ施設にもなる。

IV. 農家レストラン

佐岡の農産物を使った料理を提供する。現在も開催されている飲食系のイベントも開催でき、宿泊者がいる際は食堂機能にもなる。

V. 多目的教室

陶芸や織物、料理等の教室として利用。現在も旧佐岡小学校にて教室は開催されている。

VI. 高知工科大学の分室

佐岡地区で研究活動を行なう高知工科大学の拠点として使用する。

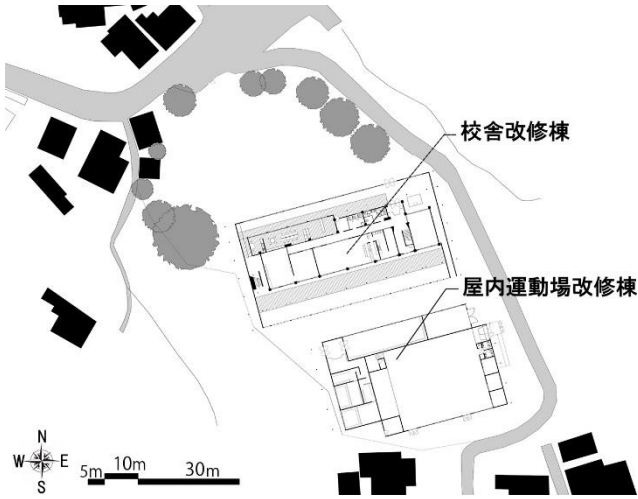
VII. 農作業等の機材管理室

農具の貸出しや農作業代行が必要な農家もある為、貸出用の農具を保管出来るようにする。

6. 設計の内容

6-1. 施設の配置計画

5-2 で記した I～VIの機能を校舎に、VIIと宿泊施設機能としての浴室は屋内運動場に配置することとした。リノベーションによって出来た新規のボリュームは、校舎の既存 RC 躯体全体を覆うようにし、時間 I で設定した木造校舎を外観とする。



(図3. 配置図)

6-2. 外部風景計画

時間 I で原風景に設定した木造校舎が訪れた人々に原風景の在り方を示し、校舎と屋内運動場で二棟の木造校舎が並ぶ風景をつくるようにする。このことで外部からの風景だけでなく敷地内の校舎と屋内運動場間との間の空間で二棟の木造校舎を体感することができるようにする。

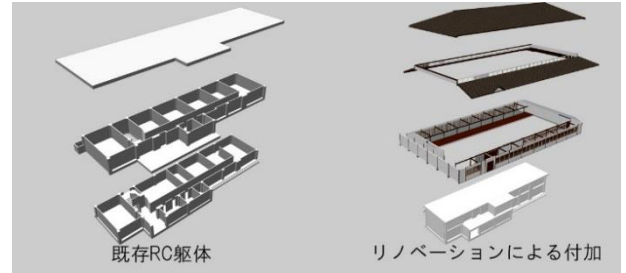


(図4. 外部風景パース)

6-3. リノベーションと機能配置

6-3-1. リノベーションの内容

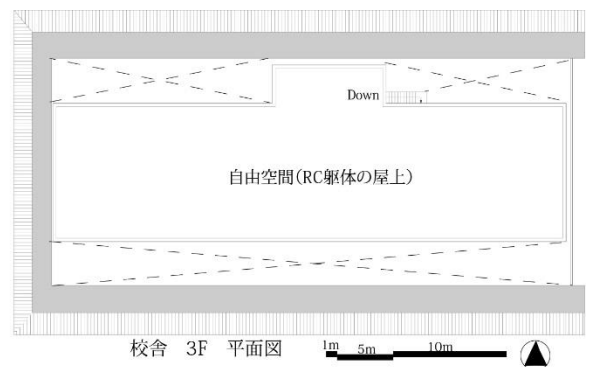
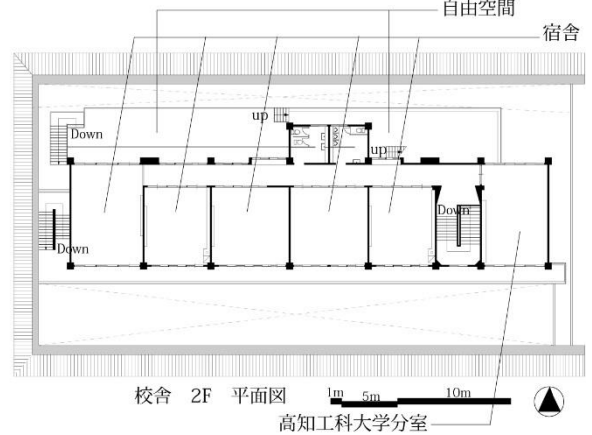
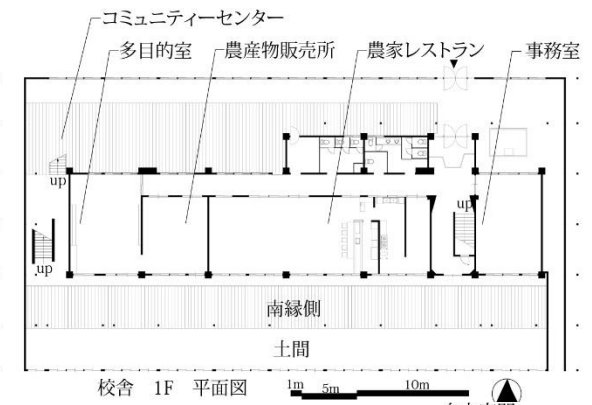
既存 RC 躯体に原風景に設定した木造校舎の木造軸組み躯体を部分的に付加する形をとる。リノベーションにより新しく出来た木造校舎空間は時間 I を感じる空間となり南は土間、縁側、北は事務、縁側とする。



(図5. リノベーション概要図)

6-3-2. 機能配置

住民アンケートの結果より、1階は地域住民に向けた機能を配置し、2階は外部からの来館者に向けた機能を配置する。時間 I と時間 II が交わるダブルスキンによる空間には機能を設けず南はコミュニティの為の空間とする。屋上と北側は使用する用途にその都度床や壁を仮設することで対応する自由空間とする。



(図6. 校舎改修棟 平面図)

6-4. 施設に感じる時間の計画

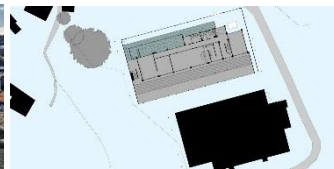
本設計で設定した時間Ⅰは、外観から原風景に触れられる。これは施設に訪れた人だけでなく建築が視界に入ることによって時間Ⅰを感じる事が出来る。

そして次に、施設に入ることによって時間Ⅱの体験をする。外観とは変わって既存校舎の慣れ親しんだ雰囲気に出会うことによって時間Ⅱを体感する。

そして再び木造校舎が現れ、対岸に木造躯体の屋内運動場が見える南縁側にたどりつく。時間Ⅰと時間Ⅱが交わる南側は機能をあてがわず縁側を介して各機能に出入りできることで2つの時間を行き来する空間とし、RC躯体の屋上と北側のダブルスキンによる空隙は常設で空間をつくらず空間に魅せられた人々がイベントなどを催す際、その都度床や壁を配置し空間を自由に設定できる自由空間とする。木造校舎の外観から始まり慣れ親しんだ既存校舎を経て、建築の時間Ⅰ、Ⅱ両者を行き来することになる。



(図 7. 外部風景形成図
・時間Ⅰ)



(図 8. 施設に感じる時間概念図
・時間Ⅰ)



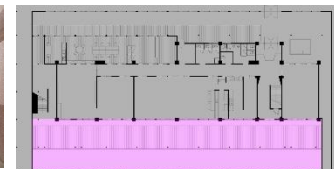
(図 9. 既存校舎内部
・時間Ⅱ)



(図 10 施設に感じる時間概念図
・時間Ⅱ)



(図 11 南縁側・時間Ⅰ, Ⅱ)



(図 12. 施設に感じる時間概念図・南, 時間Ⅰ, Ⅱ)



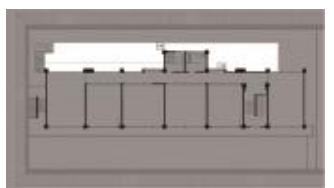
(図 13. 3F 既存校舎屋上
・時間Ⅰ, Ⅱ)



(図 14. 施設に感じる時間概念図・屋上, 時間Ⅰ, Ⅱ)



(図 15. コミュニティーセンター上部・時間Ⅰ, Ⅱ)



(図 16. 施設に感じる時間概念図・北側, 時間Ⅰ, Ⅱ)

7. まとめ 一新・旧空間を重ねて繋ぐ未来の風景

「時間Ⅰ」「時間Ⅱ」双方を併せ持ち、さらには2つの時間を行き来しうる新しい建築を提案した。訪れた人々は昔建っていたとされる木造校舎が周辺環境の中に立ち上がる様に揺るがない「原風景」の在り方を感じ、その後、この校舎の中に入る。すると見慣れたRC躯体の小学校に出会う。南へ進むと再び木造校舎が現れ2つの校舎を行き来することで、2つの時空を旅するような経験となる。原風景を設定することで芯が通った風景が地域に改めて根付き、また既存建築物のリノベーションはもうひとつの過去の記憶を受け継ぎ、この両者が合わさり地域のよりどころになる。ここで地域住民たちの交流が生まれ地域のコミュニティの核となるとともに、その豊かさは佐岡地区の魅力を自ずと外部にも発信していくことに繋がるだろう。



(図 17. 情景パース)

8. 引用参考文献

- *1. 国土地理院地図<<https://map.gis.go.jp>> (2018. 1. 15 取得)